

教育プログラムの概要及び採択理由

機 関 名	神戸大学	申請分野(系)	医療系
教育プログラムの名称	アジアにおける双方向型保健学教育の実践		
主たる研究科・専攻名	保健学研究科保健学専攻		
(他の大学と共同申請する場合の大学名、研究科専攻名)			
取組実施担当者	(代表者) 宇賀 昭二		

【教育プログラムの概要】

【本取組の背景及び目的】

国際保健分野における実践的な活動の充実には医療専門職の役割がますます重要となってくるとともに、我が国に対する開発途上国の国際保健活動に対する期待は急速に高まっている。アジア諸国における公衆衛生の向上や、自然災害後の急性・回復・復興期における災害保健実践は時間軸を長く要し、病院や治療ベースを中心とする医学分野での対応のみならず、保健学分野の貢献が期待されている。これまで、本研究科では、各教員がアジア各地で独自に展開してきた国際保健研究活動(国際保健セミナーへの参画を含む)に院生を帯同し、活動してきた実績を有しており、これらの研究補助活動を通じて、院生の個別の保健学実践活動は行われてきている。しかしながら、上述の国際的要請に応えるためには、保健活動を展開するためのコミュニケーション能力や異文化理解能力を有し、アジア諸国における社会・経済状態や生活様式に適合した総合保健学を創造・実践でき、国際的に活動できる高度保健専門職者並びに教育・研究者の養成が急務である。

【本取組の特色】

本取組の特色は、本学保健学科で推進している特色GP『協同の知を創造する体系的IPW教育の展開』(19年度採択)を大学院レベルで発展・展開するとともに、アジア諸国及び国際機関を中心に国際貢献できる実践的な高度保健専門職者を養成するための特化したコースを開発することである。

1) **国際実践(IAH)コースの開発**：前期課程段階では、異文化の理解と問題を把握する能力を、後期課程段階では、国際保健分野の問題点の実践的解決能力を養うため、体系的な履修指導とフィールドワークを中心とした科目を開発する。

<履修指導>入学時において、本国際実践コース選択のための事前指導を行う。これまで、本研究科では、院生全員が取り組んできたWHO疫学週報の邦訳への参加を今後とも実施するほか、特に、本国際実践コースを目指す学生に対しては国際性の涵養を図るための共通・専門科目を1年次に履修するよう指導する。また、1年次末には本国際実践コースを決定した院生に対して、前期課程2年次から後期課程までのコース展開について履修指導を行う。

<前期課程>異文化理解を深化させ、問題点を発掘する能力を身に付けるため、保健学研究科教員と本学国際協力研究科教員・アジア提携大学(4カ国・5大学)教員との合同講義方式による「国際実践特講Ⅰ」を開発するとともに、院生はアジア提携大学院生と合同で受講する。さらに、国際活動の基礎を習得し、基礎的交渉力を身に付けるため、国内での国際機関(JICA兵庫、WHO神戸)における「国際実践フィールドワークⅠ」を開発し、フィールドワークを行う。なお、本国際実践コースの院生に対しては、アジア諸国で開催される学会やセミナーなどへ参加するための経済的支援を行う。

<後期課程>学術的交渉力を身に付けるため、1年次に国内外での研究機関において領域毎の専門研究を研究者との対話を通じて「国際実践特講Ⅱ」を開発する。さらに、実践的交渉力を身に付けるため、2年次から3年次において、アジア諸国での実践的なチーム医療活動の実施を行う「IPW特講Ⅱ」、アジア諸国でのフィールド(4分野)における教員・院生との協働・実践活動を行う「国際実践フィールドワークⅡ」、さらに、院生がアジア提携大学院生と合同企画によるセミナーを国内で開催する「国際実践フィールドワーク演習」を開発する。

アジア提携大学 インドネシア；ガジャマダ大学・アイルランガ大学 タイ；チェンマイ大学
ネパール；ネパール医科大学 フィリピン；フィリピン大学

フィールド 感染症予防と対策 国際開発・感染症介護支援
災害保健・地域保健 リプロダクティブヘルス

2) **論文作成・学修指導プロセス**：本研究科教務学生委員会により学修プロセスを適切に管理し、段階に応じた適切な論文指導を行うとともに、外国人教員を雇用し、博士論文などの英文作成に関するサポート体制を整備する。なお、学修指導の中で、TAとしての授業補助による院生の教育能力やRAとしての研究・教育補助による院生の研究・教育能力の養成を図る。

【養成される人材像】

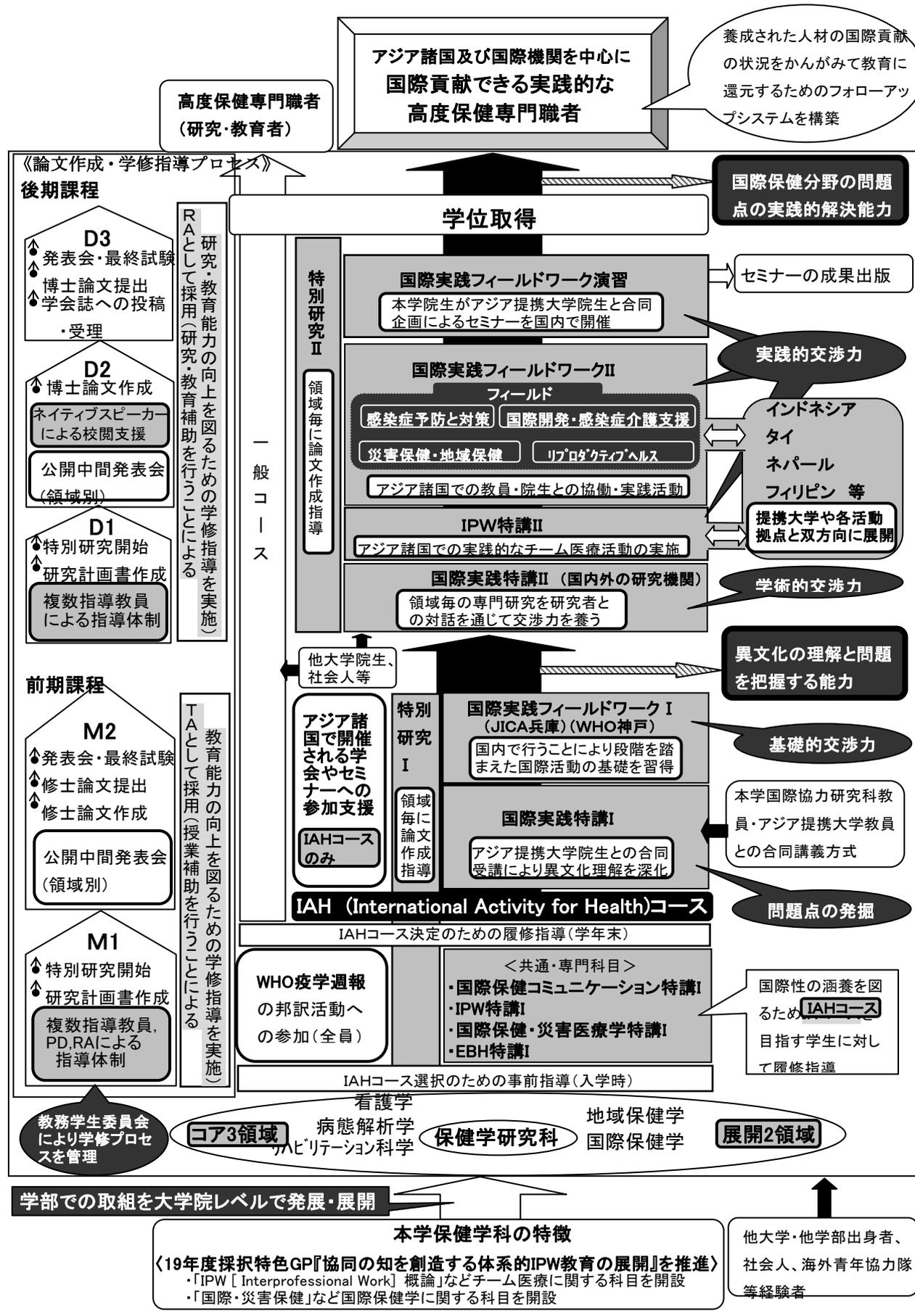
本取組における異文化理解に基づく**国際実践コース**において、アジアにおける双方向型教育を受けることにより、アジア諸国及び国際機関を中心に国際貢献できる実践的な高度保健専門職者が養成される。

なお、本取組では、併せて、養成された人材の国際貢献の状況をかんがみて教育に還元するためのフォローアップシステムを構築する。

神戸大学：アジアにおける双方向型保健学教育の実践

履修プロセスの概念図（履修指導及び研究指導のプロセスについて全体像と特徴がわかるように図示してください。）

アジアにおける双方向型保健学教育の実践
—異文化理解に基づく国際実践コースの開発—



<採択理由>

大学院教育の実質化の面では、恒常的に学生と教員の意見交換の機会を設けるなど、堅実なファカルティ・ディベロップメントの取組がなされている点は評価できる。

教育プログラムについては、開発途上国における近年の我が国の国際保健活動への期待の高まりを受けて、研究科の人材養成目的を具体化し、アジア諸国及び国際機関を中心に国際貢献できる実践的な高度保健専門職者を養成するため、JICAやWHO等の国内の国際機関でのフィールドワークや、アジアの連携大学の協力の下にアジア各国で実施する国際保健医療の実践活動等により、国際保健分野における問題点の実践的解決能力を身に付けさせるカリキュラム等、よく検討された取組として評価できる。神戸大学は国際協力、国際貢献において長年の実績を有しており、国際保健に関連する教員が充実していることから、本教育プログラムの実施体制の面からも実現性が期待できる。また、大学全体における本教育プログラムの位置付けも明確にされており、今後の展開も期待できる。